

序



我が国においては、情報化、国際化、科学技術の著しい進歩、産業・就業構造の変化、高齢化や少子化社会への移行、労働時間の短縮と自由時間の増加など、広範で急速な社会変化に的確に対応した文教行政の展開が強く求められております。

県教育委員会といたしましては、このような情勢を踏まえ「第4次福島県長期総合教育計画」を策定し、「新世紀ふくしまを担う『明るく個性豊かな人間の育成』」を基本目標

として、教育行政の推進に努めております。本年度は長期総合教育計画がスタートして3年目にあたる年であり、この目標実現に向けて年度ごとに重点施策を設定し、当該年度において重点的に推進する施策及びその具体化の方向を示し、諸施策の推進に積極的に取り組んできましたところであります。

主な施策の展開について概観いたしますと、まず、はじめに生涯学習の振興では、学習活動を支援するための生涯学習情報提供システム「ふくしまマナビネット」が8割以上の市町村と結ばれるなど着実な条件整備に努めました。

学校教育につきましては、小・中・高等学校にわたる学力向上の充実に努めるとともに、子どもたちに豊かな心や創造性を育む教育を積極的に進めてまいりました。県立学校の施設設備の整備にも特に力を注ぎました。

また、芸術文化の振興や文化財の保護、「ふくしま国体」を契機とした総合的なスポーツの振興にも意を用いてきたところであります。

さらに、平成7年は県のシンボル事業でもある第50回国民体育大会「ふくしま国体」(全国国体)が盛大に開催され、まさに「友よほんとうの空にとべ」のスローガン通りの錦秋の蒼天下で熱戦が繰り広げられ、男女総合成績において国民体育大会史上最高の得点をあげ総合優勝に輝き、天皇杯・皇后杯の栄冠を手にし、役員・選手等の関係者はもとより県民にとって心より感動を覚えた年でもありました。

本県教育行政の実績をまとめた平成7年度実績「教育年報」の発刊にあたり、その施策の一端につきまして申し述べましたが、本誌が本県教育の限りない発展のために、多くの皆様方に有意義に活用されるよう祈念いたします。

平成8年9月

福島県教育委員会
教育長 渡邊貞雄